

第 250 回 昭和の森自然観察会

昭和の森のキノコ

木嶋恵子（睦沢町）

日時：2012年10月14日（日）10～15時 天候：小雨のち曇

参加者：46名（うち子ども8名） 指導員19名

担当指導員：坂本文雄 川北紀子 木嶋恵子

今回は、昭和の森の観察会としては初めての一日観察会でした。「曇」という予報だったのに、朝8時過ぎには雨粒が落ちてきました。でも受付開始の頃には明るくなり、小雨になってホッとしました。参加者は、若いカップルや子どもづれのご夫婦からシルバーエイジの方々まで幅広く、キノコへの関心の高さを示していました。

朝の挨拶後、坂本さんが講師の紹介をし、本日の予定、キノコの採取法、キイロスズメバチへの注意などを話した後、色別プレートで3班に分かれ出発しました。コースは、1班：ユースホステル方面の斜面林、2班：梅林から下タ池間の斜面林、3班：展望台から秋の道を通り下タ池までです。「キノコ狩り」は初めてという方がほとんどでしたが、子どもたちの「あった！」の声に刺激されながら探しました。掘り上げた時の満足げな顔は、大人も子どもも同じで、「採取」は人の心を高揚させるものだと改めて思いました。

採取したキノコは、東屋のテーブルに敷いたブルーシートに並べました。講師の同定のもと、グループ分けと名前が書かれた白紙の上に乗ったキノコはざっと40種くらい、さすが60数人で探ただけありました。昼食後はいよいよ講師 吹春先生による「キノコの同定・解説、質疑応答」です。最初に「ベニタケ属」について、「もろく、壊れやすい」と話された後<毒キノコの俗説>について触れられました。○柄が縦にさけるキノコは食べられる。○毒キノコは毒々しい色をしている。○毒キノコもナスと煮たり、塩漬けにすれば食べられる。○虫が食べているキノコは食べられる、などはみな迷信だという事でした。又、毒キノコはそれほど多くなく、全体の1%位だそうです。身近にいくつも存在することもわかりました。白いドクツルタケや事務所前の植え込みにあったイボテングタケは大型で目立つキノコです。ニガクリタケは小型で一見可愛いキノコですが、毒だそうで、参加者の一人が口に含んで苦味の体験（もちろんすぐ出しました）をしました。キノコは個体変異が大きいので正しい知識を身につけるためには、観察会などに参加し有識者の下で実物を前に経験を積むことが第一のようです。皆さん熱心に聴き、2時間はアツという間に過ぎました。モグラの便所の上に生えるナガエノスギダケや自らを溶かす分解酵素を出すヒトヨタケ、キノコに寄生するギンリョウソウなどの話も興味深いものでした。

会終了後、キノコのサンプルは希望者に持ち帰ってもらいましたが、人気No.1はタマゴタケで、少女3名がジャンケンをしました。参加者の感想として、「思ったより沢山の種類を見つけられ、楽しかった。」「講師の先生の解説がわかりやすく、面白かった。」「昭和の森は初めてだったが、この後の観察会にも来てみたい。」などがありました。



吹春先生のキノコ解説